

# 排ガス中のダイオキシン類立入検査 — 2005年度の結果 —

清水 明 宇野健一 吉澤 正 半野勝正 仁平雅子

## 1 はじめに

当センターでは 1999 年度から発生源施設の立入検査において、排ガス中のダイオキシン類の測定を行っている。2005 年度も環境生活部大気保全課が実施する立入検査で、ダイオキシン類の排ガス試料の採取、分析を行った。その結果をここに報告する。

## 2 立入検査の概要

### 2・1 検査施設

大気保全課、センター大気環境研究室と共同で、3事業所の3施設に対して立入検査を実施した。

### 2・2 検査期間

2005 年 11 月、12 月

### 2・3 採取および分析方法

排ガス中のダイオキシン類は採取前に流速、温度、水分量、ガス組成を測定して等速吸引量を求め、JIS K0311「排ガス中のダイオキシン類の測定方法」に準拠して排ガスの採取および分析を行った。

## 3 結果と考察

立入検査結果を表 1 に示す。いずれの施設の測定結果も排出基準値を大きく下回っていた。また、3施設とも立入検査の試料サンプリング中の一酸化炭

素(CO)濃度は低い状態で比較的変動が小さく、燃焼状態が良好に保たれていた。事業所AとCの施設は都市ゴミを焼却する焼却炉で、焼却炉投入前には焼却物の均一化を行っている。事業所Bの施設は事業所から排出される廃水処理するための焼却炉である。それぞれ一定している形態の焼却物を投入していることが、焼却炉の良好な燃焼状態につながっていたと推察された。

## 4 今後の課題

県内における排ガス発生源(特定施設)からのダイオキシン類の排出量の推移は、国内全体とほぼ同様の割合で減少していることが報告されており、大気環境基準値(0.6 pg-TEQ/m<sup>3</sup>)を超過する地点もほとんど見られなくなっていることから、排ガス中のダイオキシン類の大気環境への負荷は確実に減少していると考えられた。

しかし、2005 年度の大気環境調査では船橋市の 1 地点で年平均値が基準値を超過しており、今後もダイオキシン類の排出に対して監視をしていく必要があると考えた。

表 1 2005年度排ガス中ダイオキシン類検査結果

検査日	事業所名 (施設名)	処理装置	設置年月日	焼却能力 (kg/h)	火床面積 (m <sup>2</sup> )	排出基準 (ng-TEQ/m <sup>3</sup> N)	測定結果 (ng-TEQ/m <sup>3</sup> N)	排ガス採取中の CO濃度平均値 (ppm)
11月8日	A (第1工場1号炉)	バグフィルター	1981/12/11	4,167	27.3	1	0.048	4.1
11月9日	B (廃水焼却炉)	湿式排煙脱硝 (アルカリ吸収)	1989/10/20	840	1.8	10	0.0012	3.5
12月7日	C (B系焼却炉)	バグフィルター	1987/4/1	2,500	5.8	5	0.025	22.1

\* 施設種類はすべて廃棄物焼却炉